



革新的研究開発推進プログラム (ImPACT)

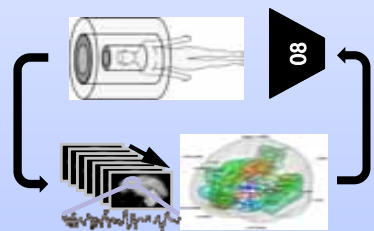
「脳情報の可視化と制御による 活力溢れる生活の実現」

研究開発プログラムの進捗状況報告

プログラム・マネージャー
山川 義徳

世界に先駆けた脳情報産業の創造

日本の脳情報研究と
ロボット研究は世界トップ



ニューロフィードバック



デコーディング ロボティクス

脳情報を用いた
民生応用のモデルケース
の公開

国際競争力を持った
民生応用のエコシステム
の形成

多くの社会課題が
脳と心の問題に帰属

情報化

言葉が独り歩き



サービス化

社会的ストレス増加



高齢化

認知機能の低下



世界で進む医療分野を中心とした脳科学研究

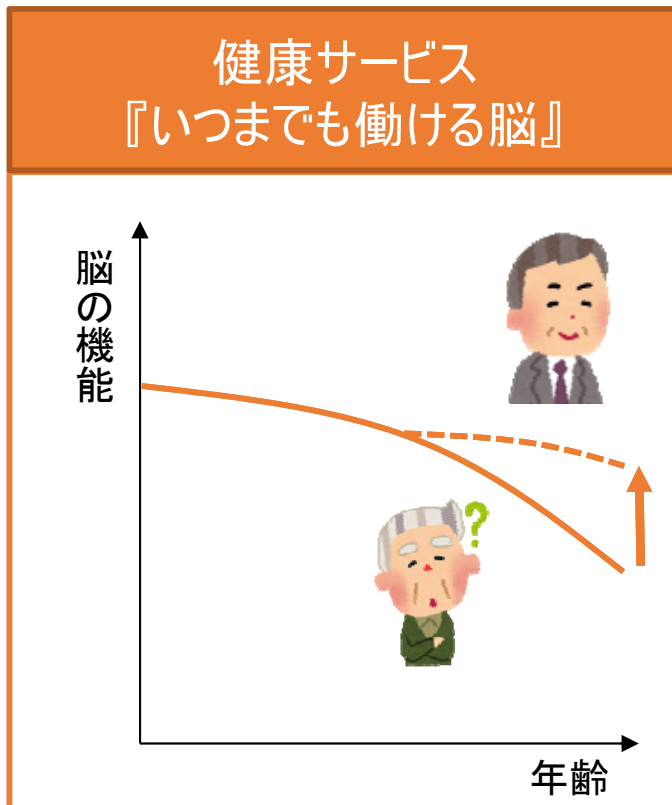
EUの取組

脳をシミュレートし、創薬へ。
2012年～10年約1460億円。

米国の取組

脳神経回路の根本研究。
2013年～初年度約100億円。

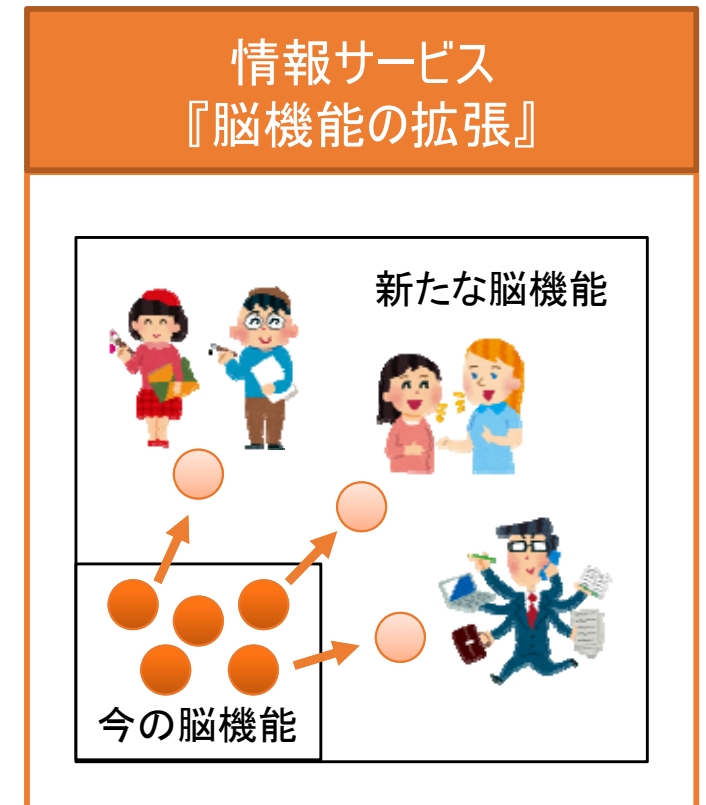
脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現



高齢者の脳機能維持による
労働人口の維持・拡大



労働者への人材育成による
サービス生産性の向上



ネットのユーザ体験を超える
創造性・身体性の強化

9の研究開発グループ

Before ImPACT		脳ビッグデータ	携帯型BMI	脳ロボティクス	After ImPACT	
情報社会	情報の洪水 	言葉を超えた多様な情報表現 	創造力や革新性の獲得 	脳を進化させる拡張身体 	膨大な情報や新たな機器にも対応できる脳機能の拡張	情報サービス
	難しいコトづくり ストレス 	おもてなし等のプロの脳を共有 	感情や共感性のトレーニング 	学習を促進するロボティクス 	モノづくり中心からコトづくりへの経済転換に対応した人材育成の実現	教育サービス
	労働年齢 高齢化 	脳の多様な健康状態の把握 	記憶力・注意力の維持・増進 	脳と身体の健康生活サポート 	中高年の脳の健康維持による労働人口の維持・拡大	健康サービス